

## 令和3年度の主な事業

### ■移住・定住促進事業

地域おこし協力隊制度を活用して、農業（メロン栽培）部門、フリーミッション部門などにおける隊員を公募するほか、首都圏で開催されるPR事業において、本市のPRや情報発信により関心を持ってもらえるよう取り組み、関係機関・団体や市内企業等と連携して移住者の誘致を図る。

定住促進条例に基づき、持ち家取得奨励金事業、住宅リフォーム助成事業、空き家・空き地情報バンク事業などと連動させながら定住の促進を図る。

### ■公営住宅建替事業

「芦別市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、これまで公営住宅「すみれ団地」及び集会施設の建替を実施しており、今年度は2棟10戸の住宅を建設する。また、公営住宅「ことぶき団地」の建設に向け、今年度は地質調査と実施設計を行い、令和4年度から現地建替計画に基づき7棟68戸の建設と除却を実施する。

### ■立地適正化計画策定事業・地域公共交通計画策定事業

コンパクトなまちづくりの推進に向けて、都市部への居住及び都市機能の集約や適切な配置などを示す「立地適正化計画」を策定し、別途、芦別市地域公共交通会議が持続可能な公共交通ネットワークの構築に向け策定する「地域公共交通計画」のほか、医療・福祉、商業分野など関係施策との連携を図り、コンパクトで利便性と持続性の高いまちづくりを目指す。

### ■新型コロナウイルス抗原定量検査費用助成事業

新型コロナウイルス感染症のクラスター発生を予防するため、医療、福祉及び介護施設を運営する事業者が、従事者、入院及び入所者に対し、市立芦別病院が行う新型コロナウイルス感染症の抗原定量検査を行った場合の費用の一部を助成する。

### ■新型コロナウイルスワクチン接種事業

国及び北海道との連携と市内医療機関の協力を得ながら、国から示される優先順位や接種要領に基づき、集団接種を総合福祉センターで実施、個別接種

を市内医療機関と協力して順次実施する。

### ■社会事業授産施設建設事業

授産施設として認可を受けている芦別白光舎について、施設内が狭いため作業効率が低下し、機械設備も老朽化している状況であることから、新工場の建設に向け資金の一部を助成する。

### ■農業振興対策事業

国の制度や芦別市農業担い手育成条例に基づき、農業担い手の確保・育成に向けた施策を展開するほか、Uターン後継者については、制度の有効活用が図られるよう支援し、農業従事者の確保・育成に取り組む。また、地域おこし協力隊制度を活用して、生産組合の協力のもと第三者継承などの手法も取り入れながら農業従事者の育成を図り、多様な担い手の確保に努める。

### ■花と木・緑化推進事業

「花と木・緑化推進実施計画」に基づき、旭ヶ丘公園から上金剛山までの散策路の周辺整備と植栽を行うほか、上金剛山山頂に展望施設等を整備し、自然環境を活かしながら雲海と夜景が眺望でき、安らぎと潤いをもたらす景観づくりに努める。

### ■健康都市宣言等事業

健康都市宣言事業を推進するため、健康運動講座をはじめ、体育・教育等関係機関と連携しながら同宣言に関連する事業を実施し、心身の健康の維持と健康寿命の延伸を図り、活力のある健康なまちづくりを促進する。

### ■生活習慣病予防対策事業

特定健診の結果を基に個々の生活実態に沿った支援を実施し重症化を予防するとともに、健康運動講座などの健康教育を推進し生活習慣病の改善を図る。

また、がんの早期発見・早期治療に結び付けるため、広報等による市民周知や未受診者へのがん検診の受診勧奨を行うとともに、全てのがん検診を無料実施し受診率の向上に努めるほか、小中学生にがんに対する正しい知識を伝えるため学校と連携し、がん教育を実施する。

## ■感染症予防対策事業

感染症予防対策の正しい知識の普及に努め、感染症の発症及びまん延を防止するため予防接種を行い、公衆衛生の向上及び健康増進を図る。

また、65歳以上の方を対象としたインフルエンザ予防接種費用の一部助成については、対象者を18歳（高校生）以下及び妊婦の方へ拡大する。

## ■高等学校教育推進事業

芦別高等学校の募集定数となる2間口を維持するため、保護者の負担軽減を図ることを目的とした通学費及び検定試験等受験料を助成するほか、市内に住所を有する入学生の保護者に対し、修学奨励費助成金として地域限定商品券を引き続き交付する。

# ★市長だより★

47



さわやかな初夏の季節を迎えましたが、コロナ禍から、先月来、北海道が緊急事態宣言の対象とされ、芦別はその「措置区域」として、道庁から不要不急の外出自粛や飲食店の営業時間の短縮などの要請により、その実践にご尽力ご協力をいただいている市民並びに事業者の皆様にも、深く感謝申し上げます。

先月には、本市での感染者の発症例が道庁より公表されたところであり、また、感染力が強く、重症化につながりやすいともいわれる変異株が増大しており、警戒を一層強めていく必要があります。

改めて、お一人お一人が、こまめな手洗い、マスクの着用、3密（密集・密閉・密接）の回避、不要不急の外出自粛、会食・会話等でのソーシャルディスタンスの確保、店舗等での消毒など、基本的な感染防止対策を徹底していただくとともに、どこでも誰もが感染の恐れがあり、決して誹謗や中傷、差別などのないよう、思いやりを持った行動をお願いいたします。

感染対策の鍵ともいわれるワクチン接種が、今月より65歳以上の高齢者の方から、集団接種を総合福祉センター

別館で、個人接種を市内医療機関のご協力により各医療機関において実施され、7月末までに2回の接種が終了予定で、以降は、64歳以下の方を対象に国からのワクチン接種計画に沿いながら順次実施する方向で準備を進めてまいりますので、接種を希望される皆様のご協力をお願いいたします。



あしべつ宿泊交流センター2号館が4月24日に開設し、オープニングセレモニーを開催いたしました。

今期定例会に提出の、新型コロナウイルス感染症のクラスター（感染者集団）の発生防止等のための医療、福祉、介護施設を運営される事業者の方が行う市立芦別病院での抗原定量検査費用の一部助成や、経済と感染防止対策のため、外出自粛や諸行事の中止等から会食機会の減少による影響で厳しい経営環境にある飲食業経営者の方への支援金に係る条例等が議決されましたことから、適切に取り進めてまいります。

市長就任2期目の本格的なスタートの時を迎え、これまでの基本的な姿勢を変え、これまで以上に立脚した市政運営と過去4年間に取り組んできたさまざまな施策を礎に、さらに推し進めながら、新型コロナウイルス感染症対策を最重要課題として、感染拡大防止と社会経済活動の回復とともに、「まちの価値」、「人の活力」、「暮らしの質」のさらなる向上を図ることで本市の持続的発展につなげられるよう、市職員と一丸となって力を尽くしてまいります。

また、現下のコロナ禍から、市民皆様と地域等での対話や交流の機会が得にくい状況にありますが、コロナ収束の折には多くの機会を捉え、市政やまちづくりに関する意見交換等の場の設定にも意を用いてまいります。

芦別市長 萩原 貢